

認定書

国住指第 3155 号
平成 25 年 12 月 25 日

東邦シートフレーム株式会社
代表取締役社長 下川 洋治 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-1745
2. 認定をした構造方法等の名称
溶融亜鉛めっき鋼板製折板屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：
溶融亜鉛めっき鋼板製折板屋根

2. 申請仕様の寸法：
申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
支持部材間隔	4000mm以下
葺材の働き幅	621(±3)mm以下
支持方法	単純支持又は連続支持

3. 申請仕様の主構成材料：
申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様
折板	<p>材料：①～⑤の一</p> <p>①溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>②溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)</p> <p>③溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>④建築構造用溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0069又は0070)</p> <p>⑤溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323)</p> <p>厚さ：1.0mm以上</p> <p>寸法：山高さ75(+3、-1.5)mm、働き幅621(±3)mm、山間隔207(±3)mm</p> <p>断面の形状：図3参照</p> <p>勘合部差込み長さ：23(±2)mm</p> <p>長さ：最小1000mm、最大15000mm</p> <p>表面の形状：平滑</p>
タイトフレーム	<p>材料：①～⑤の一</p> <p>①溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>②溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)</p> <p>③溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>④建築構造用溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0069又は0070)</p> <p>⑤溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323)</p> <p>厚さ：3.0mm以上</p> <p>寸法：幅 40mm以上、山高さ88(+2)mm、働き幅621(-2)mm、山間隔207(±3)mm</p> <p>断面の形状：図3参照</p>

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項 目	申 請 仕 様
留付材	<p>母屋とタイトフレームの接合用：</p> <p>材料：①～④の一</p> <p>①発射打ち込み鋸 材質：ピアノ線材合金鋼 寸法：胴部径φ4.5×長さ19mm以上</p> <p>②ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125)</p> <p>③ねじ 材質：1)又は2) 1)鋼製 2)ステンレス鋼製</p> <p>②及び③の寸法：胴部径φ5×長さ35mm以上</p> <p>④すみ肉溶接 溶接長さ：20mm以上(片側)</p> <p>留付間隔又は溶接間隔：207mm以下</p>
	<p>タイトフレームと折板の接合用：</p> <p>材料：①又は②</p> <p>①ドリルねじ(JIS B 1124)</p> <p>②ねじ 材質：1)又は2) 1)鋼製 2)ステンレス鋼製</p> <p>寸法：胴部径φ5×長さ25mm以上</p> <p>留付位置：タイトフレームの山部の中心から両側に40(+5)mm離れた位置</p> <p>留付本数：2本以上(1つの山部につき)</p>
	<p>折板の長さ方向の重ね部の接合用：</p> <p>材料：①又は②</p> <p>①ドリルねじ(JIS B 1124)</p> <p>②ねじ 材質：1)又は2) 1)鋼製 2)ステンレス鋼製</p> <p>寸法：胴部径φ4×長さ13mm以上</p> <p>留付間隔：500mm以下</p>

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図3に示す。

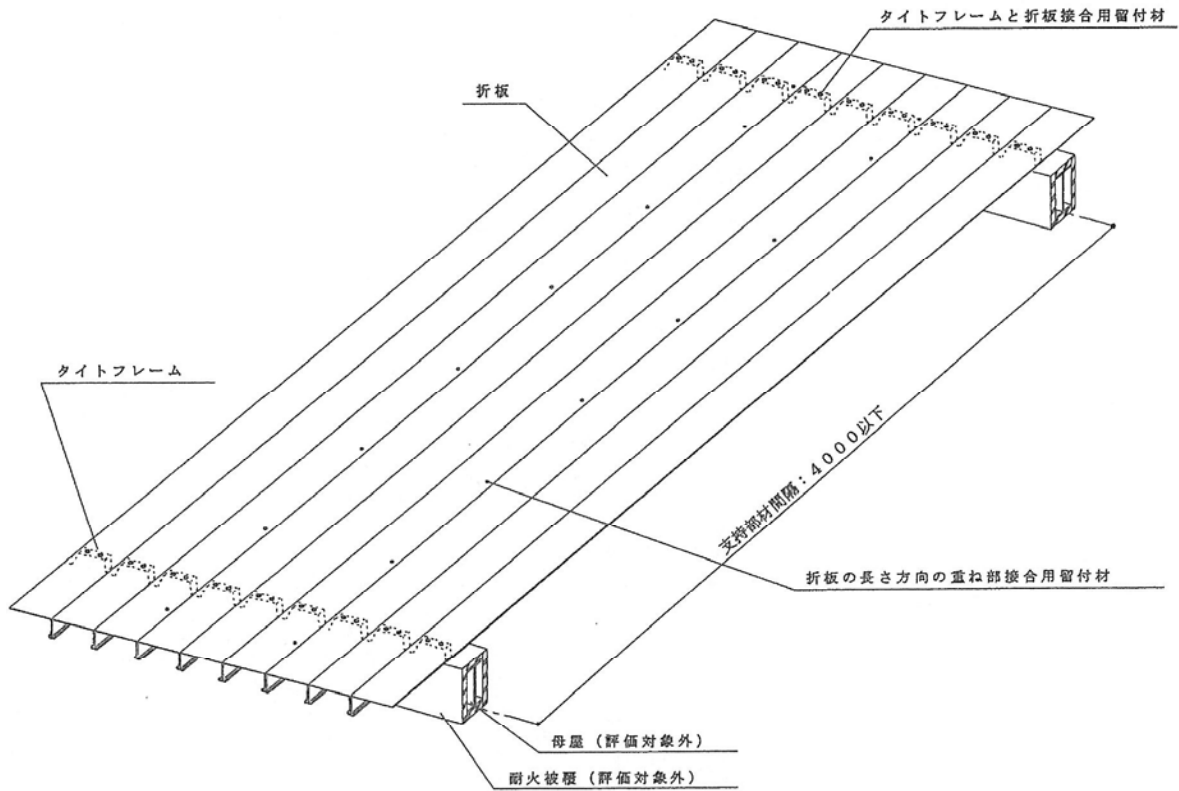
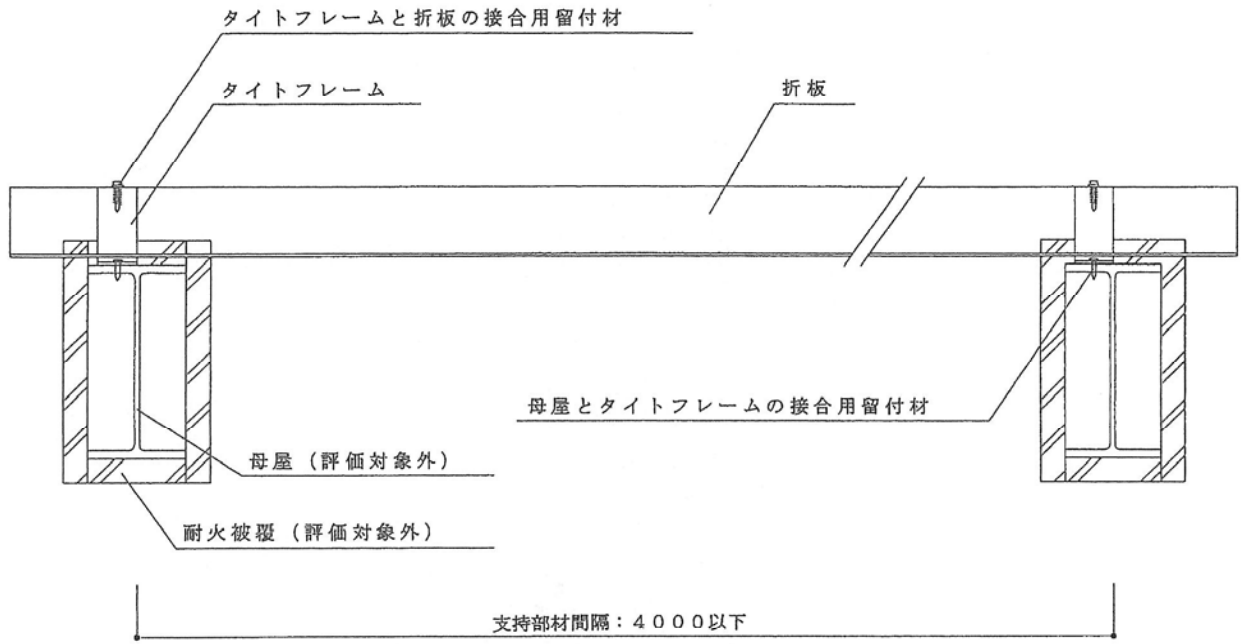
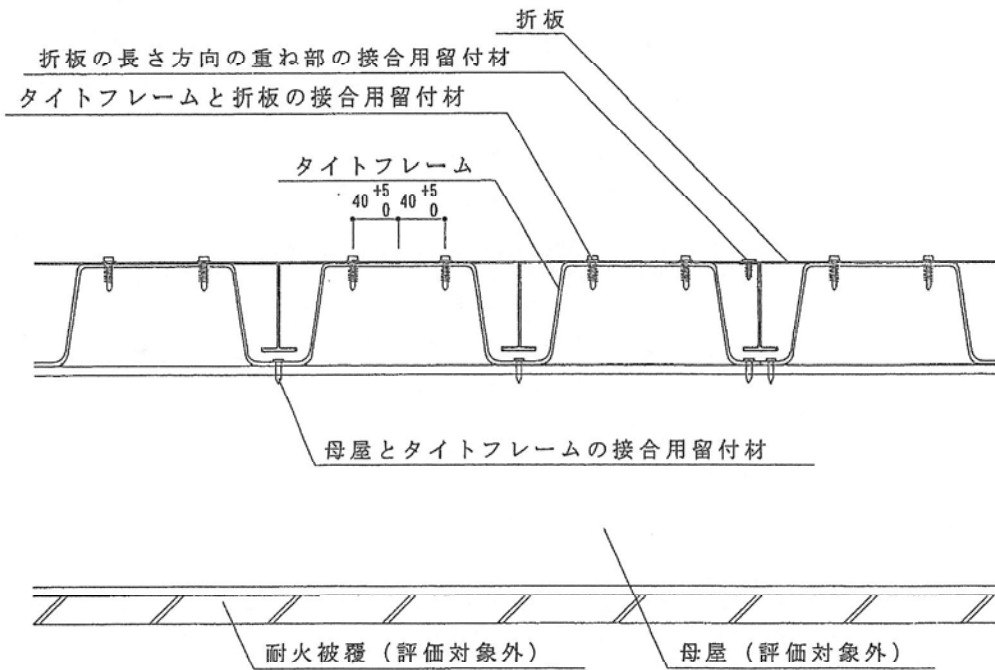


図1 構造説明図

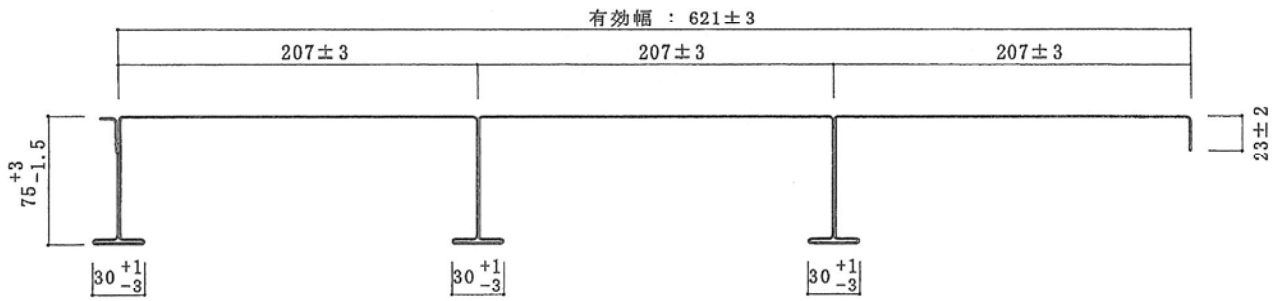


長さ方向断面図

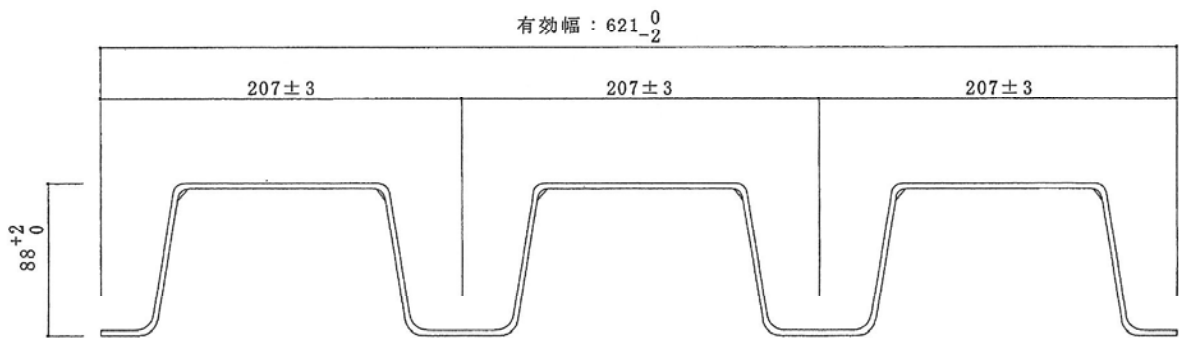


幅方向断面図

図2 構造説明図



折板断面詳細図



タイトフレーム断面詳細図

図3 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図4に示す。

施工は以下の手順で行う。

(1) 下地

支持部材(母屋)間隔は4000mm以下とし、母屋には1時間耐火被覆を行う。

ただし、平成12年建設省告示第1399号第4第三号二の規定に該当する場合には、上記の耐火被覆は必要としない。

(2) タイトフレームの取り付け

タイトフレームを墨出し線に合わせて母屋の直上に配置し、母屋とタイトフレームとの接合用留付材を用いて留付ける。

(3) 折板の取り付け

折板をタイトフレームの上に配置し、タイトフレームと折板の接合用留付材を用いて留付ける。折板の長さ方向は、折板の長さ方向の重ね部の接合用留付材を用いて留付ける。

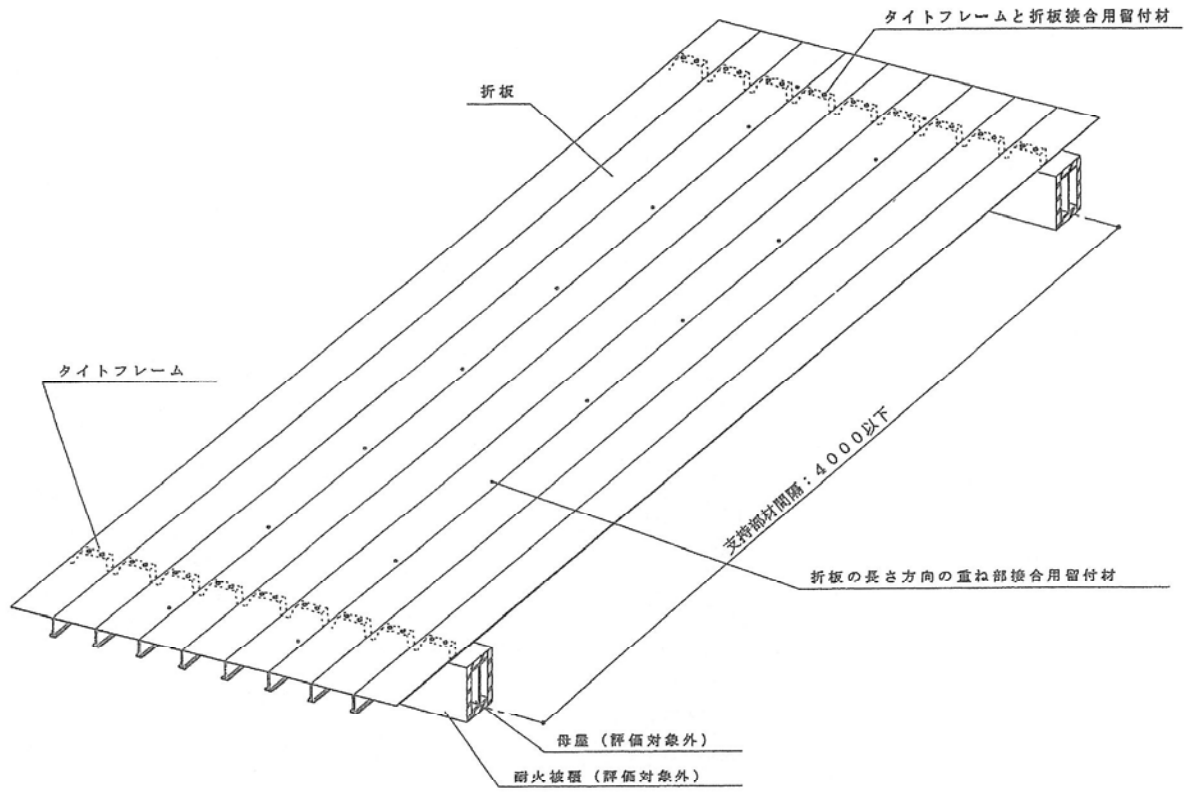


図4 施工図